

オランダにおける保育・就学前教育制度の分断と統合に関する研究：教育格差是正のためのVVE(voor- en vroegschoolse educatie)の役割に着目して

福田，紗耶香

<https://hdl.handle.net/2324/7182276>

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（教育学），課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏名	福田紗耶香			
論文名	オランダにおける保育・就学前教育制度の分断と統合に関する研究 —教育格差是正のためのVVE(voor- en vroegschoolse educatie)の 役割に着目して—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	竹熊 尚夫
	副査	九州大学	教授	野々村淑子
	副査	九州大学	教授	岡 幸江
	副査	九州大学	教授	當眞千賀子
	副査	同志社大学	准教授	見原 礼子

論文審査の結果の要旨

本論文は多文化社会オランダにおける「教育において不利な」移民子弟を対象にした補償的な就学前教育(voor- en vroegschoolse educatie, 以下VVE)に焦点を当て、海外に起源を持つ社会的に不利な層のための就学前教育がオランダ社会に受容され、保育・就学前教育制度全体に拡大していくプロセスを、それを支えた「質とハイリターンの物語」言説の機能によって解明しようとした論考である。本研究はオランダにおいて補償教育としてのVVEと通常の保育・就学前教育制度が目的や起源が異なるにもかかわらず一体化した現状に注目し、研究の第一段階として、多民族国家としての社会的変化を関連文献と政府報告書を詳細に辿ることで、就学前教育政策の形成過程における構造の変化を描き出している。そしてその中から、移民子弟を「不利な子ども」と読み替えて教育格差を解決しようとする規範的正統化と学力と言語能力によって質を保障すると評価された科学的知識・技術の技術的正当化のメカニズムが「脱文脈化」としてVVEの受容過程に生起していることを明らかにした。次に、VVEプログラムの内容の比較分析とVVEに付随する効果研究の分析を通して、プログラムの標準化が多様な保育や就学前教育のあり方、そして言語的、文化的特殊性を不可視化するというパラドックスを孕みつつも、科学的志向性をもつエビデンスの承認によって「質とハイリターンの物語」言説を更に強化したことを明らかにしている。最後に、法改正による質基準枠組改革の分析を通して、質保障というVVEの前提が規範的正統化と技術的正当化をもたらすことで、質基準に関する国家的枠組の中に統一され、補償的な就学前教育が通常の就学前教育制度全体にも拡大していくことになったと結論づけている。

以上のように、本研究で示された知見は科学的知識・技術の政策的な選択による就学前教育政策や移民政策の受容と、それに伴う教育制度の変容の解明にも資するものであり、また、オランダ教育研究並びに比較教育学に新たな視座を提供するものであると評価できる。

よって、本論文は博士(教育学)の学位に値するものと認める。